

土砂災害から身を守るために

北本市立甲陵中学校三年 如々美 優斗

二本う。予レビの中で大なる害を立って山

が崩れ落ちる映像を見ました。小学校六年生

の時でした。何が起きたのかについては理解す

ることかできませんでした。アツクとサレか

山が崩れる瞬間と説明をしてようやくどの

ような状況かわかりました。一瞬にして国道

が崩れ落ち、大量の土砂が落ちる様子は、女

しそ二人がいたうと想像すると、怖く、息

を止めることになりました。あつかうわ

か、取ることなのですが、その後一年以上水

たりのこの国道は通行できなかつたそうです。

今でも僕はその衝撃を忘れることができません

ん。

幸い 私はこのよきな災害を経験したこと

はありません。しかしいつでも自分の近くは

は危険が潜んでいることを意識しなければ

りません。事実、山梨県でも、二九年の災

害が起きているのです。父も、油断してはい

けない、と話してしました。

父は仕事柄、家の周りがけなな特に出架

具、さらには他の県の地形についても、

詳しいです。旅行などで他の県へ行くと、

地質は二つという特徴で、二の土地を利川して

こういう七日がつかうれ、いると、土砂災

害の危険度が高いというので、を教えてくれ

ます。さらに、僕は父からとて、お大切存にと

を学ばせました。それは、日本においでと、

いりも、災害が起ること、行政や周囲の人々

も手伝って、水も自分の命は自分で守ること

と、のこつてです。

山梨県の周囲は、富士山をはじめ南アール

ズ、な、三千メートルを超え、る山が連なる地形

です。川が急流である、は、土砂災害が多く起

まて、いたそうです。そこで、戦国時代の武将武

田信玄も治水対策には力をいれ、いたそうです

す。

以前、私が住んでいた近頃は、木正時代

作ら、土木的施設、勝沼堰堤、があり、ました。

「勝沼堰堤」は、国が直接工事を行、大所
 防堰堤です。百年以上前の築造土木構造物
 ですが、今も地域の人々の生活を守る役割を
 果たしています。僕が見たときは、二に構造
 物があるのか、川からないうら自然に溶け込
 めているものでした。つとつり、人々の想
 像していかれます。しかし、その構造物が
 下流地域の何千人という人々の生命や生活を
 守る。土木系にとり、居ると感慨深い気持ちか
 二社上げておまします。

小学時代の近頃の石川縣にも五百年前の古の
 といわれ、川と川が治水対策があり、僕も
 はそんなことを知らず、大人になって、四
 年生の時の授業で、万力公園を訪れたとき、国
 土交通省の方から万力湖の役割を聞いて、初め
 てその事を知りました。

日本は、急峻な地形が多く、地質は火山性
 の岩石や土砂と堆積物で構成され、この複雑
 な脆弱な地盤に、なっていること。及くは温帯
 多雨の気候があり、夏は季節風により南の湿。

た空気を日本にもたらし、降雨が多いこと、
 特々復から秋にかけて台風の影響を受けると
 により土砂災害が絶えず起まっています。

勝沼堤根や万力跡など土砂災害を防止取り
 組むの歴史は古く、現在も引き続き多くの研
 究者の方がどのような対策が効果的か現地的
 に実施を考へて研究していらっしゃるのです。
 その上で地域の人手とともに大規模な工事が行わ
 れてきました。その一部は町を単位機能別け
 の構造物ではなく、地域の景観や生活の一部

になつてまわっているのです。

土砂災害が人命や財産を守る構造物は片も
 多くの方の努力と費用を費やして造られてい
 ます。ただ、毎年襲ってくる自然災害を防止
 には対策が間に合っていないようです。それは
 船をよせたりしるすよしのでしよか。船を
 ちにすることはあるのだけれど、それには
 日頃からの備えをすることが必要です。また、船が
 から散らかるようなうら、どんな時にどんな
 場所が災害が起きるかを知り、そのような状

況にあり。在時に生かせる観察力や洞察力を養
うことである。災害が起きないときも準備が
必要である。在り生かせることになりなす。国
道が崩れ落ちるような状況では立ちすくむ
はかりになり何もできないと思います。余震
がある時の家族や近所の人たちと考えること
がとても大切なことだと思います。

私自身は自分の命や財産を守っていかないと
いけません。自分の命は自分で守る。そ
れには地球の人たちと一緒の防災について

考えたいことである。

引き続き、広域災害防止に係る研究や工
事をしつめらいたいと思います。私自身は
それらに安心することなく地域と一緒に協
働したいと思っています。